



下部を引き出しに似せて制作したオリジナルのショーケース。クラシックな雰囲気が出た市松模様の床材とマッチしている



天井近くにはパン作りの道具を展示。壁には、ブルー、ピンク、アイボリーの微妙に異なる3種類の白いタイルを貼っている



壁のタイルの絵柄は24種類あり、パンや小麦に関係するものが多い



シックでおしゃれなファサードが、粋な神楽坂の街に溶け込んでいる

フランスの文化を伝える店

現在、ポールは、大阪、東京、京都、札幌等、国内で20店舗の店がありますが、基本的なコンセプトは変更することなく、その地域のイメージや、

演出しています。中でもポール神楽坂店は、

インテリア
に見る
心地よい
店舗づくり

(株)レアルパスコ
ベーカリーズ

伝統的なフランスパンを 日本で広めた パン屋さん

ショップアドバイザー 三武 美津枝

フランスパンの店「ポール」は、創業125年という歴史を持ち、今も高品質で伝統的な味わいのフランスパンを継承しているパン屋さんです。日本でもポールの直営店が開業して今年で24年目。おしゃれなフランスの文化と共に、本場フランスパンや古典菓子を提供してきました。

ポールの伝統的なスタイル

ポール（日本の店舗）は、「1号店を出した頃は、フランスのラグジュアリーなパン屋さんという店舗はまだ数が少なく、パンを通じてフランスの文化を紹介したり、高くて美味しいものを提供したい」とコンセプトで始めました」とポール神楽坂店の日馬店長。

ポールの特徴は、創業から変わらぬフランスの伝統の味と店内のインテリアスタイルを守り続けていることです。日本のポールでも、パン、デニッシュ類、サンドイッチ類などは、フランスから直輸入したパン生地やデニッシュ生地を使い、水、塩、小麦粉の主原料もフランス産のものを使用して、本場の味を伝えています。

菓子類については、フランスに昔から伝わる伝統的なレシピのまま製造しています。流行の減塩、甘さ控えめ、小さめのサイズ等ではなく、むしろポールでは、素朴でシンプルで美味しい、しっかりと甘さのタルトやデニッシュにこだわって作っているのだそうです。

また、パン窯や厨房は、来店客からも見えるように窓を設けて、パン職人の技や焼きたてのパンを取り出す様子から、安心感や臨場感を感じてもらえるようにしています。インテリアは、素材で家庭的なフランスのパン屋さんをイメージしており、イートインコーナーでは、絵画、インテリア小物、家具、床材などをフランスから直接持ち込み、ポール独特の世界観を再現しています。

老舗の料理店や料亭が集まる東京の神楽坂通りに面しており、和の風情ある街並みにポールが溶け合



パントリーで使用しているキャビネットは、家庭的な雰囲気で使いやすいデザインに



シックで落ち着いたインテリアのイートインコーナー。古木の梁、暖やかな灯りのシャンデリア、絵画、存在感のあるミラー等が、アンティークショップのような雰囲気を醸成している



しっかりとした伝統的な味わいの菓子類

きれいにディスプレイされたサンドイッチ類

うように工夫されています。黒を基調にした店舗正面のショーケースには、焼き上がったパンを通りに向けてディスプレイして、地元の人々や観光客からもよく見えるようにしています。もちろん、店内でもたくさんの商品をショーケースに並べていますが、こちらはケースの下に古い家具のような引き出しを模した面材を貼るなどして、クラシックな雰囲気を一層高めています。「インテリアの見所はいろいろありますが、見ていただきたい、フランスの雰囲気を肌で感じて楽しんでもらえる嬉し

いです。内装は、国内で制作したもの以外はフランスから輸入したものがほとんどです。特に、ミラー、

菓子類については、フランスに昔から伝わる伝統的なレシピのまま製造しています。流行の減塩、甘さ控えめ、小さめのサイズ等ではなく、むしろポールでは、素朴でシンプルで美味しい、しっかりと甘さのタルトやデニッシュにこだわって作っているのだそうです。また、パン窯や厨房は、来店客からも見えるように窓を設けて、パン職人の技や焼きたてのパンを取り出す様子から、安心感や臨場感を感じてもらえるようにしています。インテリアは、素材で家庭的なフランスのパン屋さんをイメージしており、イートインコーナーでは、絵画、インテリア小物、家具、床材などをフランスから直接持ち込み、ポール独特の世界観を再現しています。